

学習通信 STEP UP (1年生)



次の定期テストのポイントを教えて！

今回は、11月30日・12月1日に行われる第3回定期テストの勉強ポイントをまとめました。各教科の先生に書いてもらいましたので、ぜひテスト勉強の参考にしてください。

国語	<ul style="list-style-type: none"> まずは文章を5回ほど音読をしましょう。効果的です。文章の内容が長く難しくなっています。文章の内容をしっかりと読み、接続する言葉に線や蛍光ペンを引きながら読むとよいです。 赤ねこ漢字スキル本誌別冊をやりきりましょう。2回以上書きましょう。一度かくして書き、できなかったものをもう一度やると効率が良いです。「書いたことは必ず自分に残ります。」 ワークの問題は重点的にやりましょう。繰り返しです。グラフが何を説明するものかなど説明できるようにしてやりきりましょう。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 音読練習：単語、文章を正しくすらすらと読めるように。デジタル教科書を活用してください。音声を流しながら、同じスピードで暗唱までできたらかなり力がつきます。 単語練習：これまでの単語テストを解き直しましょう。それが完璧にできたら、ウェブサイトの「英語漬け」を活用したり、デジタル教科書で流す英文を書き取ったりするとさらに力がつきます。 文法練習：語順ドリルで英語の語順を練習しましょう。単語の並べ替えに慣れてきたら、単語を見ずに日本語から英語へ書き換える練習をするとさらに力がつきます。「テストっち」を完璧にしましょう。解答欄の横に、問題となっている単語や文法の載っているページが記されています。「テストっち」と教科書を行ったり来たりしながら、学習内容を定着させてください。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 方程式：オクラや教科書、プリントの問題に何度も取り組み、確実に解けるようにする。文章問題についても、同じ問題でも何度も繰り返し解く。 変化と対応：比例、反比例とは何かを理解しておく。表から式を求めたり、式からグラフをかいたり、グラフから式を求めたりできるように練習問題に取り組む。オクラ、教科書、プリントの問題を繰り返し取り組む。 平面図形：基本的な用語を覚える。角の表し方、平行、垂直など記号を用いた表し方を覚える。それぞれの移動の名前や特徴を覚える。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を読む：内容をしっかり確認する。太字の語句を覚え、説明できるようにする。資料（地図、写真、グラフ、図など）を読み取る。 一問一答で重要語句をおさえる。 ワーク、プリントの問題を解く（何度も解き直す。）：特に資料を使った問題では、資料の意味を確認することが大事です！ 対策問題（過去問）を解く：各気候帯の雨温図と分布を区別できるようにしておくこと！
理科	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の「学習内容の整理」p.136、137、188の『大切な用語』を完璧に暗記する。内容を理解する。それができたら、ワークに取り組む。できなかった問題に★印をつける。 日が経ってから、ワークに再び取り組む。できなかった問題に★印をつける。これを繰り返すと、★印の数があなたの難易度を表しています。あとは、できるまで繰り返す。

学習通信 STEP UP (2年生)



次の定期テストのポイントを教えて！

今回は、11月30日・12月1日に行われる第3回定期テストの勉強ポイントをまとめました。各教科の先生に書いてもらいましたので、ぜひテスト勉強の参考にしてください。

国語	<ul style="list-style-type: none"> まずは文章を5回ほど音読をしましょう。文章の内容をつかめたら、臨場感（まるで自分がそこにおいて見聞きしているような感じ）あふれる表現に注意し、場面や登場人物の様子を思い浮かべながら読むとよいです。古典は暗記できるくらい口に出して読みましょう。 漢字スキルで練習したら、漢字スキルの別冊を2回以上解きましょう。できなかった問題を二度三度繰り返し練習するとよいです。 ワークの問題を自分の頭で考え、自分の意見をもちながら解きましょう。教科書の本文をよく読み、文章の中心となる部分からキーワードを抜き出してつなぐと、自ずと問題の解答になります。記述問題では模範解答と自分の解答の内容が違って当然なので、どこがどう違うのかしっかりと確認しましょう。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 各ユニットを10回以上音読しましょう。発音が分からない場合は、先生に質問したり、教科書のQRコードを読み込んだりしましょう。また、2年生の教科書のみならず、1年生のレッツリードなども音読を重ねましょう。 各ユニットで学習した表現を復習しましょう。単語の並び方や日本語の意味を確実に覚えてください。 各ユニットの英単語を覚えてください。特に、教科書の新出単語の箇所に太字で書かれている英単語は、意味だけではなくスペルまで覚えます。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 一次関数：一次関数のグラフがかけること、読めること。一次関数の式を求めること（傾きと1点の座標から・2点の座標から）。 一次関数と方程式：連立方程式を解いて、グラフの交点を求めること。応用問題では、時間と距離の関係、時間と三角形の面積の関係を学習しよう。 図形の調べ方：角の位置関係、同位角、錯角などの名称を覚える。多角形の角の計算問題や内角の和と外角の和に取り組む。問題集やプリントの問題も解き直そう。
社会	<ul style="list-style-type: none"> カラープリント、ワークから似た問題が出ます。 教科書の太字の説明をできるようにする。 教科書の資料の読み取りをできるようにする（資料の縮小コピーをチャレ学に貼り付け⇒資料で分かったこと気づいたこと考えたことを書いておく）。 教科書の文章を覚えるくらい繰り返し読む。一問一答プリントや過去問に挑戦。 ※大事なものを順番に並べました。間違えた問題はチャレ学に問題と答えを書き出すと、ミニ問題集ができ、それを繰り返しゃると効果的な復習になります。
理科	<ul style="list-style-type: none"> テストの1週間前までにワーク1回目をだいたい解き終える。そのときに、自力で解いた問題、教科書を見て解いた問題、答えを見た問題に分ける。例えば、自力で解いた問題は黒、教科書を見て解いた問題は青、答えを見た問題は赤など色分けをして解くとわかる問題とわからなかった問題が区別しやすい。 解くワークのページと関連する教科書の範囲を一度読む。 教科書を見て解いた問題、答えを見た問題を中心にワーク2回目に取り組む。または、質問をする。

学習通信 STEP UP (3年生)



次の定期テストのポイントを教えて！

今回は、11月30日・12月1日に行われる第3回定期テストの勉強ポイントをまとめました。各教科の先生に書いてもらいましたので、ぜひテスト勉強の参考にしてください。

国語	<ul style="list-style-type: none"> • まずは文章を5回ほど音読をしましょう。声に出すとさらに効果的です。文章の内容が難しくなっているので、第一に文章の内容をしっかりと把握することが大切です。 • 漢字スキルの別冊を2回以上解きましょう。一度テスト範囲の漢字を書いてみて、できなかった問題をもう一度やると効率が良いです。 • ワークの問題は抜き出し問題や文章問題を重点的にやりましょう。入れなくてはならないキーワードがあるので、文章の中心になる部分を理解して問題に望みましょう。
英語	<ul style="list-style-type: none"> • 各ユニットをしっかりと読み込みましょう。単語の意味、文の意味をしっかりと理解して読みましょう。すらすら読めるようにしておきましょう。 • 各ユニットで学習した表現を復習しましょう。英作文の中で使ってみましょう。その英作文はチェックしてもらいましょう。また、テスト範囲のプリントの復習をしておきましょう。
数学	<ul style="list-style-type: none"> • 二次方程式：因数分解を使っての二次方程式の練習、因数分解の利用、文章題の問題を復習しましょう。 • 関数：基本の言葉を教科書等で確認しましょう。式を求める、グラフをかくこと、グラフの特徴をおさえて、応用問題にも取り組みましょう。 • 相似な図形：相似比を使った問題、相似条件を使って相似な図形を見つける問題を復習しましょう。 ※教科書、オクラ、カラープリントの問題を繰り返し行う。問題を解く方法を理解しながら、復習していく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> • 教科書を読んで、授業の内容を確認する。 • 一問一答で重要語句をおさえる。 • ワーク、プリントを使って、問題に語句、文章で答えられるようにする。 • 対策問題（過去問）を使って、時間配分や問題の傾向をつかむ。 • 教科書（ワーク、プリント）にある資料の読み取りをする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> • 教科書の重要語句は完ぺきに覚える。ワークは最低2回解いておく。(〇〇法則・〇〇運動)は必ずどれかは出題されます。 • 遺伝子型(AA、Aa、aa)を書けるようにする。どの型の組み合わせで受精しても、子の割合は「〇：〇」になると、答えられるようにしておく。 • 運動とエネルギーの単元では、記録タイマーの長さから、速さを計算できるようにする。力の合成、分解の作図は、補助線(破線)を使って正確に作図できるようにする。